

常念通り

賀春

白板地区町会連合会
会長 古市 昭太郎



木目込み

あけましておめでとうございませう

気候おだやかに幕を開けた平成三十年の新春、白板地区の皆様には大きな期待を込めてご祝辞を申し上げます。

新人の連合町会長ですが、月一回の全市連合町会長会で

三十五地区の連合長や、市の理事者の皆さんとのコミュニケーションを通して白板地区の立ち位置も覚えてきました。

石器時代の古くから、人々の暮らしがあった歴史ある我が白板地区は十四の町会長さん達の、情報交換・意思疎通気寄りがとてもよく、連合会としての各種行事も他地区と比べても素晴らしいものがあり私の大好きな町であります。

白板地区公民館・福祉ひろばを中心に、町会長さんをはじめ各団体の皆さんが力を合わせて、高齢者や子供たちが元気に暮らせる町づくりをし

白板地区公民館
館報編集委員会
☎(35) 7740

新春連載

白板中公民館
館長 林 正

町内公民館長さん達に熱い思いを語っていただきました。

私たちの町会の行事は、毎月

行く「いきいきサロン」お茶飲み会を主体として、春は松本市のバスを利用した日帰りバス研修で、糸魚川市火災現場を見て火災の恐ろしさを体験し、夏は暑気払いと小学生とのラジオ体操、秋は、落語を主とした敬老会と志賀高原熊の湯温泉の一泊旅行で、紅葉を目に焼きつけて参りました。マンション、アパートが増加する中、少子高齢化も進み参加者の固定化から減少へと変化しております。新参加者増加を考えながら、災害に備えて住民が一丸となって助け合い支え合う町会作りを目指したいと思います。

白板宮本公民館
館長 鶴木 忍

地区の小さな公民館です。「生涯学習の拠点・住民の交流の場」として活用しています。巷での少子高齢化など何処吹く風、白板宮本老人クラブ陸会の方々とはとても元気です。向上心も忘れていません。

健康長寿を目指す中高年世代から次世代を担う子供たちまで、全ての住民が互いに刺激しあい、より良い環境の中

で絆を深め支えあえる「住みよい街づくり」のお手伝いのできる事が願いです。

宮渚日向公民館
館長 忠地 基晴

宮渚日向町会は、百世帯弱の小さな町会。公民館は、宮渚東町会との共有で共同管理。こんな町の公民館長を、今年度からお引き受けしましたが、まず脳裡に浮かんだのは、超少子高齢化や人口減少やらの運営上の課題。

でもそれは、どこでも同じこと。そこで、今まきに行われている公民館や町会での活動を、タイムリーに町全体へと広めようと、「町内公民館報」を創刊することにしました。これまでに三回発行しました。効果はすぐには見えませんが、地道に活動を続け、協働による地域づくりの輪が広がるよう、取組みを進めたいと考えています。

地域学習講座

11月21日(火) 放光寺・芙蓉会16名参加で「もっと知ろう地域のこと」と題して、放光寺公民館で白板地区公民館内藤館長による学習会が開催されました。

地域学習テキスト「文化育む町「白板」」を使用して、白板地区の誕生・歴史、文化財、地名の由来、地区内の各種団体、遺跡の発掘現場から出土した、鰐口・蝶形磬(打楽器)、眉庇付胃(鉄製)の資料などを用いて地区全体についての説明や、天平2年(740)創始された古刹「放光寺」が町会名となっていることなどの放光寺の歴史・廃仏毀釈前の周辺絵図、周辺の石碑などについて学習しました。

「知らないことも多く、ためになった」「参加してよかった」「今度は文化財巡りをしてみたい」など好評でした。



■宮渚・城山などで出土した打楽器・胃尚、鰐口については馬具との説もあります。

※ 鰐口

※ 蝶形磬

参考

眉庇付胃…古墳の副葬品



クリスマス会

12月17日(日)午後、白板地区公民館で、丸ノ内スポーツクラブ「クリスマス会」が、参加者45名で開催されました。

まず、思い思いの飾り付けをしたケーキ作りを行い、射的・ストロー吹き矢などゲームを楽しんだ後、蟻ヶ崎西町会の井口基子さんのピアノに合わせて「あわてんぼうのサンタクロース」など、クリスマス



ゲームを楽しむ参加者



井口基子さんの伴奏で大合唱



ピアノ演奏を披露



スマスの歌をみんなで大合唱し、ケーキなどを食べて楽しむひとときを過ごしました。又、とび入りで小学生2人がピアノ演奏を披露して盛り上げてくれました。最後に子どもと保護者にプレゼントを配って終了しました。

「ゲームが楽しかった」「射的は景品があつて良かった」「ケーキづくりの飾り付けが楽しかった」「来年も来たい」などと口々に言つて帰つて行きました。

●白板地区公民館で、新年を迎える準備の、しめ縄づくり、いけ花の2講座が開催されました。



しめ縄づくり

12月21日



いけ花

12月25日



自治の鐘 丸ノ内中学校

①

今回より編集委員に丸ノ内中学校の生徒さんが加わりました。学校の行事・出来事・近況等をタイトル名『自治の鐘 丸ノ内中学校』として情報発信をしていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

新生徒会スタート

～三年生からバトンタッチ～

12月、三年生から二年生へと生徒会が引き継がれました。いよいよ二年生が生徒会を引っ張っていきます。

平成29年度は丸ノ内中学校が開校70周年を迎えました。記念すべき年の生徒会は、例年よりも地域に開かれた、より良いものでした。大目標「創」を掲げ、三本柱を強く意識して頑張ってきました。三本柱とは、生徒会が特に大切にしている「挨拶」「清掃」「合唱」の三つの活動です。誰とでも挨拶をするための「挨拶プロジェクト」、全校生徒一人ひとりが清掃している写真に意気込みを書き添えた「清掃Pictures」、音楽会を終えた後も歌声を響かせた「クラス対抗歌合戦」、この他にも各委員会の活動には、丸中が良くなるための工夫がいっぱいでした。

このように、三年生はいつも私たちを引っ張り、70周年の節目の生徒会を担う大役を果たしてくれました。そして、いよいよ私たちの番です。伝統と「三本柱」をより大切にしながら、71年目の新しい一歩を踏み出そうとがんばっています。現在は新執行部役員を中心に、平成30年度生徒会の目標や活動内容を話し合っています。これからは、三月に行う「三年生を送る会」の計画、運営が始まり、準備に忙しくなっています。

私たちはそんな中で、時間を守ることを大切にしていきたいと考えました。忙しくなると、生活の中の時間や仕事の締め切りなどを守ることがおろそかになるからです。自分たちでできることから全力で取り組み、先輩たちのように責任を果たせる三年生になりたいです。

このように、三年生はいつも私たちを引っ張り、70周年の節目の生徒会を担う大役を果たしてくれました。そして、いよいよ私たちの番です。伝統と「三本柱」をより大切にしながら、71年目の新しい一歩を踏み出そうとがんばっています。現在は新執行部役員を中心に、平成30年度生徒会の目標や活動内容を話し合っています。これからは、三月に行う「三年生を送る会」の計画、運営が始まり、準備に忙しくなっています。



生徒総会で活発に討議する丸中生

コラム 豪華寝台列車

北海道新幹線開業で、寝台特急「カシオペア」は役目を終え、現在は観光寝台列車として使用され、篠ノ井線にも入線するようになり松本でも見かけるようになりました。

JR各社は、豪華寝台列車を投入し、それまでの寝台列車とは一線を画し、内装や食事、サービスなどは最上級のものになり、車内ではピアノの生演奏やひのき風呂、展望デッキなど各社趣向を凝らしたさまざまなおもてなしも用意されていて、乗車そのものが目的になり、いつか乗ってみたい存在にもなっています。10両編成、定員34名のJR東日本の「TRAIN SUITE 四季島(トランス イートしきしま)」は、篠ノ井線に入線し、県内では唯一「姨捨駅」に停車します。今は、走行を見ているだけですが、いつかは各地の豪華寝台列車に乗車したいと思っています。

このように、三年生はいつも私たちを引っ張り、70周年の節目の生徒会を担う大役を果たしてくれました。そして、いよいよ私たちの番です。伝統と「三本柱」をより大切にしながら、71年目の新しい一歩を踏み出そうとがんばっています。現在は新執行部役員を中心に、平成30年度生徒会の目標や活動内容を話し合っています。これからは、三月に行う「三年生を送る会」の計画、運営が始まり、準備に忙しくなっています。



松本駅にて カシオペア



四季島あずさと一緒に

(T・N)